

か け は し

栄西・栄東・丘珠 地区版

2025
第26号

10月

いくつになっても住み慣れた地域で 暮らしていくために…

少子高齢化が進む近年、地域の福祉ニーズは多様化し、介護保険などの公的サービスだけでは賄えない「ちょっとした困りごと」を抱えている人が増えています。

昨年度の札幌市生活支援推進連絡会（市協議体）にて、多様な主体（町内会や老人クラブ、ボランティア組織、民間企業など）と地域の高齢者が抱える「ちょっとした困りごと」について検討しました。

その中でも解決の優先順位が高いと考えられる、札幌市全体の共通する「ちょっとした困りごと」が11項目にまとめられ、「新・札幌ニーズ11（イレブン）」として示されました。

各地域の状況に照らし合わせながら、市・区・エリアが連動して支え合い活動の仕組みづくりを進めていきます。

「新・札幌ニーズ11（イレブン）」

 ①ゴミ関係	 ②除雪	③移動手段 (通院・余暇等)	④買い物
⑤高所作業 (電球交換、窓拭き掃除等) 	⑥重いものを動かす・運ぶ (家具・灯油タンクの運搬等) 	⑦身元保証 (転居・契約等)	⑧話し相手・相談相手 かかわり/つながり
⑨生活に必要な情報の入手 (スマホ・インターネット・家電の操作、使い方) 	⑩区役所、公共料金・宅配等の手続き (書類の書き方等)		⑪担い手不足 (町内・自治会の当番ができない等)

東区では「新・札幌ニーズ11（イレブン）」をもとに、各地区や町内会にてアンケート調査をさせていただきます。

把握したちょっとした困りごとの解決に向けて、地域の皆様をはじめとする地域の多様な主体と一緒に考え、支え合いの仕組みづくりに繋げていきます。



皆さんのお住まいの地域について聞かせてください。
「あったらいいな」「できたらいいな」を一緒に考えましょう！

高校生のパワーを地域の力に！可能性は無限大！

北海道札幌丘珠高等学校ボランティア部のみなさんを対象に、支えあいに関する意識調査を行いました。

遊び/学び、身体を動かす、生活支援、交流/イベント、その他の項目の中から、「高校生の自分たちならできそう」「気軽に組み組めそう」と感じるものに印を付けてもらいました。

さらに「ぜひ挑戦してみたい！」内容に○、反対に「ちょっと無理」と感じるものには×を付けてもらい、高校生のみなさんに響くものは何かをリサーチ！

できそう、なおかつやってみたいと思う内容の中には「短時間の除雪」がでてきました。高校生のやる気と元気に頼もしさを感じました。

実際にどんな活動なら出来そうか、また、地域のみなさんと連携・協力出来そうな内容は何かなど、一緒に考えていきたいと考えています。



トランプ・オセロの相手、ぬりえや折り紙、工作、ウォーキング、モルック、短時間の除雪、清掃活動、ペットのお世話、話し相手、イベントの手伝い、雪遊び 他にもたくさんの項目に○が付き、多くの事柄に関心・興味を寄せてくれていることがわかりました。高校生が難しいと感じている内容は、囲碁・将棋の相手でした。

担い手開発・育成

栄西地区



【くらしのサポーター養成講座】



【利き手を骨折！困ることは？】



【介護保険制度についての○×クイズ】

ささえあい活動に興味をもってくださった子育て中の方、本講座を未受講のちょぼう隊の方など年齢の幅が広いのが今回の特徴です。

グループワークや意見交換は多世代ならではの色々な案と笑顔があふれました。

「大勢で考えることが良かった」「人とのつながりが大切」「気楽に頼めると安心につながる」という声も。

発行・お問い合わせ先

札幌市東区社会福祉協議会

電話 011-741-6440

〒065-8612 札幌市東区北11条東7丁目1-1 東区民センター1階

第2層生活支援コーディネーター

熊谷（栄西、栄東、丘珠地区担当）

